

WG 活動報告

13: 成人 T 細胞白血病リンパ腫(ATL)

1. WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 宇都宮 與	公益財団法人慈愛会 今村病院分院	血液内科
加藤 光次	九州大学病院	血液腫瘍内科
菱澤 方勝	京都大学医学部附属病院	血液・腫瘍内科
田野崎 隆二	国立がん研究センター 中央病院	輸血療法科
高塚 祥芝	公益財団法人慈愛会 今村病院分院	血液内科
石田 高司	名古屋市立大学病院	血液・膠原病内科
福島 卓也	琉球大学医学部保健学科	病態検査学講座血液免疫検査学分野
増田 昌人	琉球大学医学部附属病院	がんセンター
中瀬 浩一	愛媛県立中央病院がん治療センター	血液内科
赤塚 美樹	藤田保健衛生大学病院	血液内科・化学療法科
和氣 敦	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院分院	血液内科
鈴宮 淳司	島根大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
東梅 友美	ミシガン大学がんセンター	血液・腫瘍内科 BMT プログラム
名和 由一郎	愛媛県立中央病院がん治療センター	血液内科
鶴池 直邦	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター	血液内科
崔 日承	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター	血液内科
藤原 弘	愛媛大学医学部附属病院	第一内科
中野 伸亮	公益財団法人慈愛会 今村病院分院	血液内科
町田 真一郎	東海大学医学部付属病院	血液腫瘍内科
朝倉 義崇	日本赤十字社 沖縄赤十字病院	血液内科
多田 耕平	国立がん研究センター 中央病院	血液腫瘍科・造血幹細胞移植科
澤山 靖	長崎大学病院	血液内科(原研内科)
井上 明威	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
今田 和典	小倉記念病院	血液内科
吉田 功	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター	血液腫瘍内科
吉満 誠	鹿児島大学病院	血液・膠原病内科

2. 承認研究の進捗状況(2013 年 1 月-12 月 ※JSHCT2014 を含む)

13-1	「ATL 患者に対する同種骨髄破壊的移植と非破壊的移植の比較検討」 PI: 石田高司
学会発表: 済(WG 研究業績一覧参照)	
論文業績: 済(WG 研究業績一覧参照)	
13-2	「成人 T 細胞性白血病／リンパ腫に対する臍帯血移植の後方視的検討」 PI: 加藤光次
学会発表: 済(WG 研究業績一覧参照)	

学会発表: Koji Kato, et al. Cord blood transplantation for adult T-cell leukemia/lymphoma(ATL): A retrospective analysis from the ATL Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. 12th International Conference on Malignant Lymphoma (12-ICML), 平成 25 年 6 月 19 日, Lugano 論文業績: 投稿中	
13-3	「ATL 患者に対する同種骨髄破壊的移植と非破壊的移植の比較検討、GVHD の意義について」 PI: 石田高司 学会発表: なし 論文業績: Ishida T, Hishizawa M, Kato K, Tanosaki R, Fukuda T, Takatsuka Y, Eto T, Miyazaki Y, Hidaka M, Uike N, Miyamoto T, Tsudo M, Sakamaki H, Morishima Y, Suzuki R, Utsunomiya A. Impact of graft-versus-host disease on allogeneic hematopoietic cell transplantation for adult T cell leukemia-lymphoma focusing on preconditioning regimens: nationwide retrospective study. Biol Blood Marrow Transplant. 2013;(12):1731-9.
13-4	「成人 T 細胞性白血病／リンパ腫の同種移植後再発に対する治療およびその予後に関する検討」 PI: 加藤光次 学会発表: Koji Kato et al. Treatment of relapsed/refractory adult T-cell leukemia/lymphoma after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: the JSHCT-ATLWG study 第 36 回日本造血細胞移植学会総会, 平成 26 年 3 月 8 日, 沖縄コンベンションセンター 口演予定 論文業績: なし

3. 会議開催記録(2013 年 1 月-12 月)

日時	場所	会議内容
2013/1/14 (第 6 回)	国立がん研究センター 中央病院	臍帯血移植の解析で、若年者、寛解状態、骨髄破壊移植などの予後良好の因子の抽出を行った。また、ルガノ悪性リンパ腫国際会議への発表を行うことを確認した。 骨髄破壊的移植と非破壊的移植の比較検討の中で GVHD の意義について議論した。両前処置ともに G1/2 の急性 GVHD の発症は予後良好に働いた。G3/4 の急性 GVHD は有意に治療関連死と関連していた。早急に論文作成を行うこととした。 各種リスクスコアの有用性についての提案があったが、2007 年以降のデータ欠損が多く、再検討することとなった。
2013/3/7 (第 7 回)	金沢県立音楽堂	ATL-WG の責任者の選挙にて宇都宮が再選された旨の報告が選挙管理委員長の鈴宮先生より報告がなされた。 日本造血細胞移植学会でのワーキンググループ活動発表会の ATL-WG の報告内容について宇都宮より説明した。 再移植症例の検討、各種リスクスコアの有用性の検討、中枢神経浸潤の解析、などが新しい研究テーマの提案候補としてあがった。
2013/7/7 (第 8 回)	名古屋第一赤十字病院	新規メンバー 4 名(井上、今田、吉田、吉満)の自己紹介と抱負について述べてもらった。 臍帯血移植の後方視的研究でルガノ会議での発表について加藤先生より報告があった。生着前の感染症を中心とした移植関連死が多いことが問題であるとの指摘を受けた。すみやかに論文投稿をすすめることで合意した。新たな

		研究テーマとして、(1)再移植症例の検討、(2)CMV 感染症、(3)HLA と移植成績、(4)中枢神経浸潤、などが候補としてあがった。
--	--	--

4. メーリングリストによる意見交換（メーリングリスト開設から 2013 年 12 月末時点まで） （ 986 ）回

5. WG の今後の活動方針・抱負など

今年度の ATL-WG の活動は、打ち合わせ会は3回開催したものの新たな研究課題が1つの承認のみであった。成果としては、論文発表1編、論文投稿中1編、学会発表2回のみで十分ではなかった。ATL-WG の活性化が急務とされ、4 名の新規メンバーも加えて活性化を図りたい。新たな研究テーマの候補として、感染症、リスクスコアの有用性、HLA と移植成績、中枢神経浸潤などの研究テーマがあがっているため、今後できる限り早急に研究テーマとして申請する計画である。